

令和7年9月11日

報道各位

全国農業協同組合連合会岡山県本部

全国に誇る岡山県特産千両なすの産地活性化を目指して・・・

単為結果性品種導入に関する生産者向け研修会開催

■主催：JA全農おかやま / JA全農おかやま 園芸専門部 施設なす部会
(協力)岡山県

■日時：2025年9月17日(水)13時30分～

■場所：JA岡山 備南営農センター 野菜園芸管理センター2階大会議室
(住所) — 岡山市南区北七区61-1

半世紀以上の伝統を誇る岡山県特産の千両なす(ハウス栽培)が、近年の必要経費の高騰、市場価格の伸び悩みから生産量が落ち込んでいます。また、生産農家の高齢化もあり、ここ5年で農家戸数は103戸から73戸と減少傾向です。

そこで、JAでは産地の活性化を図るために単為結果性品種の導入を進めており、今作における導入比率は生産面積の70%以上、県内大半の生産者が取り組みを開始することとなっています。

つきましては、本年度よりの本格的取り組み開始にあたり生産者向け研修会を開催します。今後の産地の行方を握る新品種の導入に関する生産者対象の研修会を是非取材下さい。

【開催内容】～ 別紙のとおり

【単為結果性品種について】

生産農家は、受粉・受精が不要な単為結果性品種を導入することで、従来300時間/10a以上かかっていた着果促進作業が不要となり、大幅な省力化が可能となります。また、高い着果力により収量が安定し、日焼け果などの発生が少ないため秀品率が向上し、収益アップが期待できます。

一方では、従来種より着果性が高いため、初期から強く生育させ、草勢を弱らせない管理が重要となります。また、時期ごとに新品種に応じた枝管理を行い、収量と品質の安定を図ることが農家にとっては大切となります。

【参加者】

県内生産農家 約 50 名

行政（農業研究所研究員、各地区普及指導員など）、種苗メーカー技術員

J A 関係者など

計 約 100 名

【当日のイメージ】



【その他】

従来品種と単位結果性品種の現物（茄子）を準備し、外観、食味などに大きな差は無く、販売上の問題がないことを確認します。

現地圃場には両品種が植え付けされています。圃場の事前取材などのご相談は下記までお願いします。

本年度計画出荷量 1,500 トン （R6 年実績：1,302 トン 出荷は翌年 6 月末まで）

《問い合わせ先》

J A 全農おかやま 園芸課

080-4486-1633（森藤）

080-4486-1629（真野）

岡山県産 施設なす単為結果性品種研修会 開催内容

1 趣 旨

なすは県産野菜を代表する品目の一つであり、県内はもとより、京阪神など県外へも広く出荷されており、品質面で高い評価を得ている。

一方、管理作業の省力化を図るため単為結果性品種の導入が進んでおり、県内でも急速な普及拡大がなされ、安定生産を確立すべく産地でも実証試験が行われている。ついては、本研修会でも安定生産を目的として単為結果性品種の特性について知識を深めるとともに、産地での先進導入事例を含め、情報の共有化を図る。

2 日時・場所

令和7年9月17日（水）13時30分～16時00分

J A岡山 備南営農センター 野菜産地管理センター2階大会議室
（岡山市南区北七区61-1）

3 内 容

- （1）品種の特性について
- （2）県内での試験経過および今後の計画について（岡山県農業研究所）
- （3）県内での栽培経過と傾向および課題について（JAグループ）
- （4）現地視察（備南営農センター管内）

4 主 催

- ・JA 全農おかやま 園芸専門部 施設なす部会
（JA岡山、JA晴れの国岡山、JA全農おかやまで構成）
- ・全国農業協同組合連合会岡山県本部
- ・（協力）岡山県

5 参集範囲

県内生産者、農業協同組合、全国農業協同組合連合会岡山県本部、
行政関係者 等

